



Interview

山本先生が語る

進化する授業 進化する教師

山本 崇雄 先生

新渡戸文化小中学高等学校

統括校長補佐・
中学教育デザインチーフ・
英語科

横浜創英中学校・高等学校
教育アドバイザー

「教えない授業」を実践する 山本崇雄先生に聞く！

私学の先生、授業の進化その背景

Q. 「教えない授業」との出会いはどうなものだったのでしょうか。

A. 24年間公立の中学校や中高一貫校でアクティブラーニング型の授業はもともと実践していました。その時から成果はあげてきてはいたのですが、2011年の東日本大震災のときに大きく変わりました。あの時から、子供たちの前から先生が急にいなくなるかもしれない、そうなったときに、自分がずっと引っ張っていくスタイルの授業に疑問を感じ、思い切って子供たちに活動のハンドルを渡していくようになったのがきっかけです。

Q. 周りの反応はどうなものだったのでしょうか。

A. 「教えない授業」を始めたのが、一斉詰め込み型の授業が多い進学校だったので、生徒主体の授業でも進学実績を出せることなど理解が広がるのには時間がかかりました。保護者もご自身が経験していない授業

スタイルだったので、生徒たちの「授業が楽しい」という声や自ら学んでいる姿を見て、徐々に安心・信頼が生まれていった感じです。

**Q. 日本の教育が変わらなければいけなくなった流れのよ
うなものがありますでしょうか。**

A. もともと日本には、寺子屋という個別最適の学びが行われていた時代があり、今でも学び合いであったり学びの共同体という実践が行われています。寺子屋時代の教育から、日本は人口がどんどん増えていって、誰かのコピーをすれば稼げたりとか、仕事として成り立ったりするような時代になりました。効率よく教えれば効率よく知識は身につくことは事実だと思うのですが、人口が減っていっている中では、その手法だと新しいアイデアが生まれにくく、立ちいかなくなっているのは親も先生も実感していると思うのです。ですからもう一度立ち返り、本来行われていた寺



山本崇雄 先生

新渡戸文化小中学高等学校（統括校長補佐・中学教育デザインチーフ・英語科）横浜創英中学校・高等学校（教育アドバイザー）の他、日本パブリックリレーションズ研究所主任研究員、News Pics 学びの伴走者、ゲイト CSR 教育デザイナーなど複数の企業でも活動。未来教育デザイン Confeito 共同代表。ADE (Apple Distinguished Educator)、LEGO® SERIOUS PLAY® メソッドと教材活用トレーニング終了認定ファシリテータ。東京都立中高一貫教育校を経て2019年度より現職。「教えない授業」と呼ばれる自律型学習者を育てる授業を実践。教育改革や CBL、生徒の自律などをテーマにした講演会、出前授業、執筆活動を精力的に行っている。検定教科書 [NEW CROWN ENGLISH SERIES] (三省堂) の編集委員を務めるほか、著書に「なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか」(日経 BP 社)、「教えない授業」の始め方」(アルク)、「学校に頼らなければ学力は伸びる」(産業能率大学出版部) ほか、監修書に「21マスで基礎が身につく英語ドリルタテ×ヨコ」シリーズ(アルク)がある。

子屋の手法・思想のような子どもたち主体の教育を取り戻したいという思いが強くなります。

Q. 「教えない授業」を初体験の生徒を前にした場合、先生が最初にかける言葉は何でしょうか。

A. 公立で教えていたときは、「できない」を「できる」経験をさせるというのが掴みではあったのですが、これまで様々な学校で教えていくうちに、勉強をしたいとできるようになりたいというマインドセットができていない子どもがたくさんいたわけです。中には受験に失敗して自己肯定感をものすごく失ってしまっている子どもたちもいる、その子たちに「これはわかるようになったよね」という授業が必ずしも良いことではないということをご数年すごく感じていて、現在授業で最初にするのは「メタ認知をする」、自分の今をメタ認知してありのままを受け入れる、できないことも含めて自分の可能性として感じていけるように、心理的安全性の高い教室にしていくということを一番大事にしていて、できないことって悪いことじゃないよねっていう感じからスタートし、そこから目標設定、どんな自分になりたいのか、スタート地点と目指すところをどういうふうにしていくのかといった声かけをしていきます。

Q. 生徒主体にしていると、時間がかかったり、人手が必要になってきたりする心配があるのですが、そのバランスはどのように考えられているのでしょうか。

A. 先生を主語にすると、1年生の1学期のうちにここまで進まないといけなとか、これを教えないといけなとか、そういうことが出てくると思うのですが、あくまで私は生徒を主語にして、生徒が1学期にどこまで学びたいかという仕掛けを作ることが大事だと思うのです。私の場合、1年間でこれだけのことを学ぶよということを最初に見せて、そこから学び方というものと一緒に体験しながら、どういうトレーニングが必要なのかというのを見ていくと、複数の手法がわかり、その中から選択することができるので、いつまでにこの量をやらなければいけないという課題になるとそれは

タイムマネジメントだったり、自己の感情のコントロールだったり、ということになってきます。

学習指導要領があって検定教科書があり、私は基本的に検定教科書をベースにしているので、1年生ではこの量を学ぶことになっているということを見せ、「これをどう学ぶ？」というのを生徒たちに預けて、生徒たちに「どうしたい？」ということを常に確認し続けます。先生に教わらないと進まないではなくて、むしろ空いている時間があったりだとか、先生が休みになってしまったりした時だとかは、そこを自己調整する時間だということに生徒たちに理解させていく、生徒たちも試行錯誤をしながら、失敗をしながら自分をコントロールするというのを学んでいくことが大事なのかなと思うのです。

先生との連携に関しても、私は教えることを否定しているわけではありません、一斉授業も必要だとは思っています。いろいろな強みを持っている先生方がいて、生徒たちがいろいろな学び方を選べるようになっていくといいかなと思うんですね。自分をコントロールしたり自分でマネジメントしていくというやり方を体感できればそれが他の授業にも応用できるようになると思います。なので隣の先生に教えない授業やろうよと強いることはしないで、例えばその先生が教えるのが上手でスキルがある先生だったらそれを活かすべきだと思うのです。全ての先生がスーパーティーチャーになる必要はないし、全ての先生が教えない授業をする必要もありません。学校のチームとしていろいろな先生の特長が活かされ、バランスをとっていくことが大事だと思います。

Q. アクティブラーニングとかPBLとかは、聞くことはあっても実はよく知らない人も多いと思います。その中で、保護者はどう動いて判断していけばよいのでしょうか。

A. 学習指導要領は10年ごとに改訂されています。でも、自分のお子様の学校の授業参観に行くと、授業自体はそんなに変わっていないことに気づくと思います。それは、先生は指導要領に縛られず、かなり自由に授業ができてしまうからです。これまでの「大人し

く座っている」「先生の話の聞いている」「わかりやすい板書で説明もわかりやすい」といった教師がコントロールした「落ち着いた」授業が必ずしもいい授業とは限りません。授業を見学される時、生徒に主体的な学びが起きているか、対話があるか、テクノロジーは活用されているかと言った観点で見学することも大切です。こういった、これからの教育のあり方については親も学んでいき、既存の意識を変える必要があると思います。そしてそれを声に出すのです。例えば三者面談の時に「ICTをもっと取り入れてほしい」とか、「iPadを使った授業でこんなに成長することができた」とか、意見や要望を言うか言わないかって凄く大きいのです。そういう声が増えていくことは教育を変える上ですごく大事だと思っています。何かトラブルがあったときにだけ先生と話すのではなく、教育方法や学校の授業のあり方などについてももう少し話してもいいのではないかと思います。遠慮されたり、これは言ってもしょうがないって思いこんでしまう部分もあると思いますし、自分ひとりが言ったところで変わらないと思うかもしれませんが、実はそのひとりの声でハッとすることっていうのは結構あるのです。そういうところから動いていければいいと思います。

Q. 中学受験をするかどうか、学校選びを迷われている保護者はたくさんいると思うのですが、そういった方々にアドバイスなどありますでしょうか。

A. 受験は親子で共に戦い抜くものみたいな印象があると思うのですが、大事なものは自己決定だと思います。小学生に自己決定は難しいと思われるかもしれませんが、最終的な決断を自分でするかどうかっていうのは大きく違うと思うのですね。その際に最初に合意しておいてほしいことは、入試が全てではないということ、この学校に入ることが人生決めることではないということは常に言葉にして言ってあげてほしいなと思います。自分はここを目指しているけれどもそうじゃない道もたくさんある、行きたい学校はたくさんあった方が良く思うのです。ダメだった時もあるけれどもそれで人生終わりではないということを感じ取り対話することがすごく大事です。ダメだったらそこからどう人生を作っていくかを考えるためにも、選択肢を持つことは素晴らしいことなんだということもじっくり対話してほしいと思っています。



今回の話も含め、載せきれなかったさらに詳しい話を動画で公開しています。ご興味ある方はこちらをご覧ください。